

平和構築分野における 水供給等の課題とニーズ

～ザンビアの事例～

2020年10月5日
ガバナンス・平和構築部
平和構築室

持続可能な開発目標 (SDGs)



目標16 : 平和と公正をすべての人に
(Peace, justice and strong institutions)

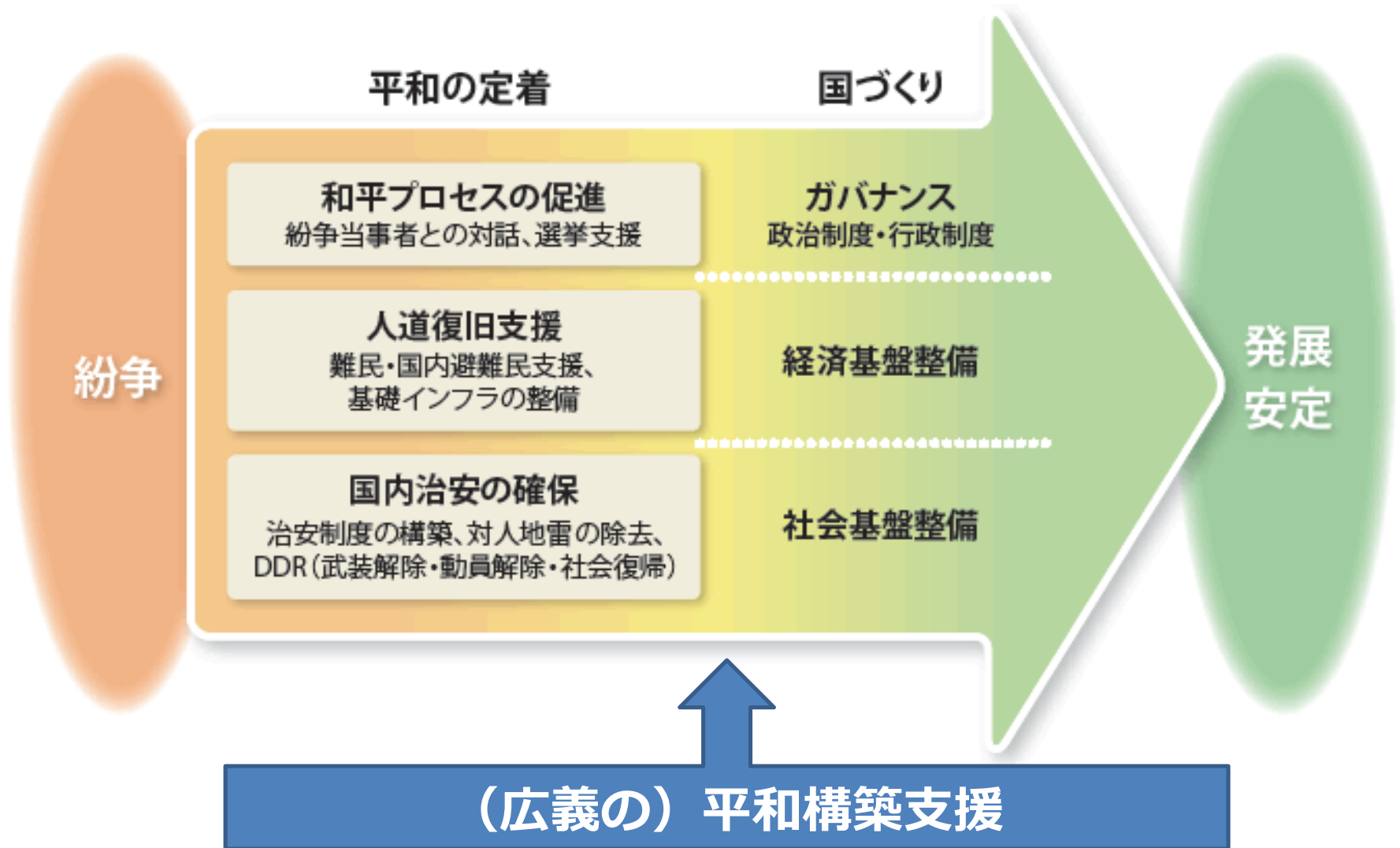


持続可能な開発に向けて**平和で包摂的な社会**を促進し、
すべての人々に**司法へのアクセス**を提供するとともに、
あらゆるレベルにおいて効果的で責任ある包摂的な**制度**
を構築する

ねらい

- ・あらゆる形態の暴力の大幅な削減
- ・紛争と情勢不安の恒久的な解決

紛争から平和に至るプロセス



【基本方針】

1. **開発機関としての強みと経験を活かした支援**
2. 人道支援と開発協力の連携の推進
3. 顔の見える支援や国際的発信の強化を通じた日本のプレゼンス向上

【支援の3本柱】

(1) 難民受入国への包括的な支援

- 難民問題を難民受入国の開発課題と位置付け、受入国のオーナーシップの下、行政能力強化、社会サービス向上、インフラ整備等を強化

(2) 難民を対象とした人材育成

- 難民の自立・生計向上や、帰還後に国創りを担う中核人材となることを支援するため、職業訓練や高等教育の機会等を提供

(3) 国際機関等との連携強化

- 人道支援と開発協力の連携を政策レベルから事業レベルまで一貫して推進するため、国際機関等との連携を強化

ザンビアの事例

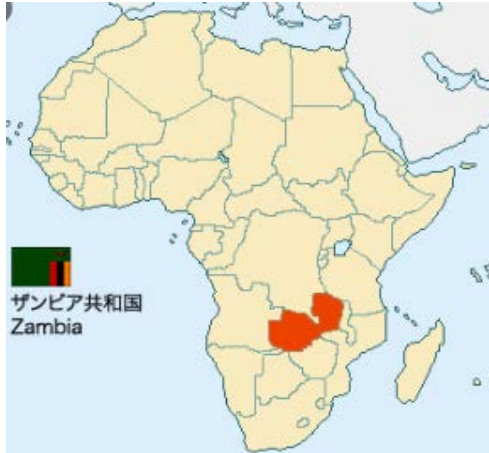


実施中のJICAプロジェクト

ザンビア：元難民現地統合支援

(https://www.jica.go.jp/press/2019/20191004_20.html)

ザンビアにおける元難民現地統合事業



【ザンビア国概要】出所：外務省HP

- 1.面積 約75.3万km²(日本の約2倍)
- 2.人口 約1,735万人(2018年:世銀)
- 3.首都 ルサカ(人口約300万人)
- 4.民族 73部族(トンガ系、ニャンジア系、ベンバ系)
- 5.言語 英語(公用語)、ベンバ語、ニャンジア語、トンガ語
- 6.宗教 キリスト教(8割)、イスラム教、ヒンドゥー教等
- 7.主要産業 鉱業(銅、コバルト)、農業(トウモロコシ、タバコ、綿花、大豆) 観光
- 8.一人当たりGNI 1,430USD(2018年:世銀)
- 9.経済成長率 3.8%(2018年:世銀)



【ザンビアの難民受入対応】

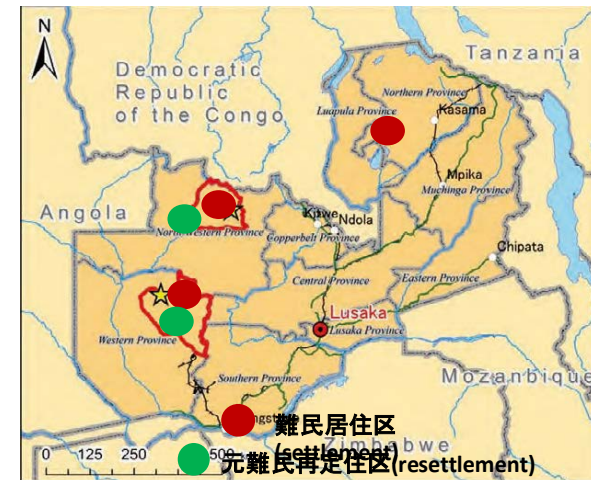
○難民:約60,000人(2020.5現在):DRC(8割以上)/ブルンジ/ソマリア等

元難民:約18,000人:元アンゴラ難民約14,000人、元ルワンダ難民約3,500人

○本国への帰還を選択しない長期化難民(元アンゴラ難民、元ルワンダ難民)に対して、2014年から「現地統合事業」を実施。

⇒法的地位の付与、再定住区の土地権利取得、社会サービス提供、コミュニティ支援

○3か所の難民居住区、うち2か所で現地統合事業を実施
(北西部州カルンビラ郡メヘバ、西部州カオマ郡マユクワユクワ)

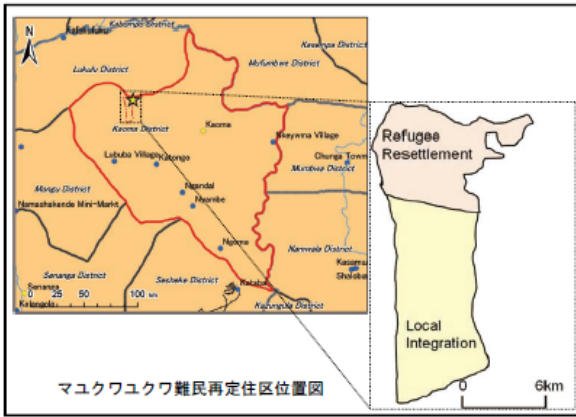


難民受入地域の特徴



○北西部州カルンビラ郡メヘバ
 人口: 20,185人(うち元難民10,333人)
 面積: 686km²(再定住区442 km²)

○西部州カオマ郡マユクワユクワ
 人口: 13,662人(7,099人)
 面積: 162 km²(再定住区85km²)



【元難民再定住区の特徴】

○5haの土地/世帯、農地開墾

○世帯の70%~80%に農業による収入がある
 (年間50USD以下)、その他日雇い労働、販売等。

○基礎インフラが限定的。



活用が想定される製品・技術・ノウハウ



(低価格、維持管理や操作が容易な)

・給水施設・装置

・水浄化装置

・汚泥処理装置

